

○新施設での業務開始2年目を迎え、東京都における高齢者医療及び老年学・老年医学研究の拠点として、高齢者の特性に配慮した質の高い医療の提供及び高齢者の健康維持・増進と活力の向上を目指す研究をさらに進めるための年度計画とした。

○診療報酬改定や国の医療保険制度改革等を踏まえ、平成26年度にセンターとして実施すべき内容を記載した。

○区西北部二次医療圏の災害拠点病院として、平成25年12月に新たに指定されたことから、発災時に迅速かつ適切に対応するための体制整備と地域連携の強化について記載した。

○第二期中期目標を達成するため、平成25年度に設置した経営戦略会議を中心に、より安定した経営基盤の確立と内部統制の強化を図り、センターの特長を活かしたさらなる事業成果の実現と社会貢献を果たす。

○外部有識者やセンター内部の委員による、研究の独創性、計画、成果、継続の可否等についての評価を押し進めていく。

事業（年度計画）内容

1 都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1) 高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供

ア 三つの重点医療の提供体制の充実

(7) 血管病医療

- ・ハイブリッド手術室や血管造影室を活用した検査及び治療の提供
- ・インターベンション治療などによる低侵襲かつ効果的な治療の提供
- ・植込型補助人工心臓治療等の施設基準取得に向けた取組
- ・先進医療（和温療法や末梢血単核球細胞移植療法）の推進
- ・脳血管障害に対する t-PA 治療や低侵襲な血管内治療（コイル塞栓術、ステント留置術など）の推進

(4) 高齢者がん医療

- ・最新機器を用いたがん鑑別診断の実施
- ・内視鏡を用いた低侵襲手術の推進
- ・化学療法や放射線治療など手術以外のがん治療法の充実
- ・東京都肺がん診療連携協力病院の認定申請
- ・がんによる身体的・精神的苦痛に対する緩和ケア医療の提供

(7) 認知症医療

- ・MRI やPET などを活用した早期診断及び診断精度向上に向けた取組
- ・軽度認知症例に対する外来通院リハビリテーションの充実
- ・東京都認知症疾患医療センターとして、認知症に係る各種相談及び認知症高齢者訪問活動（アウトリーチ活動）の実施
- ・「認知症ケアパス」の板橋区との共同作成

数値目標

※（ ）内は、24年度の実績

- ▶ 開心術症例数
- ▶ t-PA 治療実施件数 (24 件)
- ▶ 血管内治療実施件数 (コイル塞栓術 6 件) (ステント留置術 7 件)

- ▶ 外来化学療法実施件数 (1,757 件)

- ・MRI/SPECT 実施数 (MRI 1,253 例) (SPECT 915 例)

イ 急性期医療の取組（入退院支援の強化）

- ・急性期大動脈スーパーネットワークの参加に向けた体制の整備
- ・t-PA 治療の提供により、超急性期脳卒中患者の受入れ
- ・高齢者総合評価（CGA）の考えに基づく医療の提供
- ・重症化予防、早期回復・退院に向けた疾患別リハビリテーションの実施
- ・退院困難事例への介入など退院支援の積極的な実施
- ・在宅医療の後方連携体制の強化

ウ 救急医療の充実

- ・ICU やCCU の効率的な運用による救急診療体制の強化
- ・救急症例のカンファレンスや研修体制の充実による医師・看護師のレベルアップ
- ・「救急医療の東京ルール」や東京都CCUネットワークなどを通じた積極的な急性期患者の受入れ

エ 地域連携の推進

- ・地域における紹介、返送、逆紹介の推進による前方・後方連携の強化
- ・高額医療機器を活用した画像診断、検査の受入れ
- ・在宅医療連携病床による在宅療養患者の受入れ
- ・クローバーのさと（仮称）等との連携に向けた検討の実施
- ・災害拠点病院としての必要な体制の整備と地域連携の強化

オ 安心かつ信頼できる質の高い医療の提供

(7) より質の高い医療の提供

- ・高齢者特有の疾患に対応した専門外来の充実
- ・薬剤師の病棟配置及び薬剤管理指導の推進
- ・多職種協働によるチーム医療の推進
- ・クリニカルパスを活用した医療の標準化・効率化の推進
- ・「医療の質の指標（クオリティインディケーター）」による医療の質及び安全性の向上

(4) 医療安全対策の徹底

- ・安全管理委員会を中心とした医療安全管理体制の強化
- ・地域の医療機関との定期的な協議等による感染防止対策の実施
- ・院内ラウンドや研修等の実施による院内感染防止対策の徹底

カ 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

- ・インフォームドコンセントの徹底
- ・セカンドオピニオン外来の拡充検討
- ・患者満足度調査等を反映させた医療及びサービスの提供と療養環境の整備

・t-PA 治療実施件数（再掲）

・総合評価加算算定率 (95.0%)

▶救急患者受入数 (8,012 名)

▶ CCU/脳卒中患者受入数

・紹介率 (85.9%)

・返送/逆紹介率 (52.0%)

▶ 公開CPC開催・参加者数 (5回・院外参加者23名)

▶ 薬剤管理指導業務算定件数 (13,105 件)

▶ 転倒・転落事故発生率 (0.28%)

▶ 院内感染症対策研修会 (開催数、延参加者数、参加率)

・入院患者満足度 (86.6%)

・外来患者満足度 (77.4%)

2) 高齢者の健康の維持・増進と活力の向上を目指す研究

ア トランスレーショナルリサーチの推進（研究と医療の連携）

- ・トランスレーショナルリサーチ研究の効果的な推進
- ・病院部門との協働による尿失禁、うつ病、認知症及びがんの研究に関する成果の還元
- ・TOBIRA の研究交流フォーラム等を活用した外部機関とのネットワーク構築
- ・外部評価委員会や内部評価委員会における、研究の独創性や継続等についての評価

イ 高齢者に特有な疾患と生活機能障害を克服するための研究

- ・センター重点医療の研究の推進
- ・運動機能低下の予防法や治療法等の開発
- ・健康長寿に最適な生活習慣の解明
- ・PET を活用したがんや認知症に係る早期診断法等の開発

ウ 活気ある地域を支え、長寿を目指す研究

(7) 安心して生活するための社会環境づくりへの貢献

- ・地域高齢者の社会参加活動や社会貢献活動を促進するシステムの開発・評価に向けた取組
- ・認知症の QOL 維持・改善を目指した介入研究の実施
- ・終末期ケアの実践的研究の試行
- ・地域包括ケアシステム導入に係る医療・介護ニーズの分析、検討

(4) 災害時における高齢者への支援

- ・被災地における介護予防講座等の継続的な実施

エ 先進的な老化研究の展開・老年学研究におけるリーダーシップの発揮

- ・老化関連疾患に関わる遺伝子の探索とその機能解明
- ・高齢者ブレインバンクの充実
- ・競争的研究資金への積極的な応募
- ・国内外における研究成果の発表や海外研究機関等との共同研究の推進
- ・連携大学院等からの若手研究者の積極的な受入れ

オ 研究成果・知的財産の活用

- ・ホームページを活用した研究所の活動、研究内容及び成果の普及
- ・研究成果のさらなる特許取得や実用化
- ・介護予防主任運動指導員養成事業の充実

3) 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

ア センター職員の確保・育成

- ・計画的な固有職員の採用
- ・認定医や専門医、認定看護師などの資格取得支援
- ・研修や実習の充実による人材の確保と定着
- ・体系的な人材育成カリキュラムの実践

- ▶ TR 研究課題採択数 (11 件)
- ▶ TR 情報誌発行回数 (10 回)
- ▶ TOBIRA 研究発表数 (講演・ポスター)
- ▶ 外部資金獲得件数／金額 (268 件・645,247 千円)

- ▶ 高齢者ブレインバンク 新規登録数 (68 例)
- ▶ バイオリソース共同研究数 (42 件)
- ▶ 論文／学会発表数 (1,501 件)
- ▶ WHO 協力機関としての活動 (1 回)
- ▶ 老年学公開講座開催／出席者数 (6 回・3,421 人)
- ▶ HP アクセス数 (研究所)
- ▶ 特許新規申請数 (2 件)

イ 次代を担う医療従事者及び研究者の養成

- ・臨床研修医や看護師、研究職を目指す学生等の積極的な受入れ
- ・講師派遣等を通じた次世代の医療従事者及び研究者の人材育成

ウ 地域の医療・介護を支える人材の育成

- ・高齢者の在宅療養を支える人材の育成
- ・クローバーのさと（仮称）等との連携体制の構築

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1) 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化

- ・体制の適時見直しや弾力的な予算執行
- ・人事異動基準や人事考課制度などの検討と職員の適正配置
- ・職員提案制度を活用した改善活動の促進

2) 適切なセンター運営を行うための体制の強化

- ・内部監査の実施及び監査結果への適切な対応
- ・会計監査人監査への対応及び指摘に対する改善策の実施
- ・外部からの意見や評価を取り入れたセンター運営や業務改善
- ・ホームページを通じた法人運営に係る情報公開
- ・研修等の実施によるセンター職員としてのコンプライアンスの徹底

3 財務内容の改善に関する事項

1) 収入の確保

- ・診療報酬改定に対応した平均在院日数の短縮
- ・新規患者の確保及び病床利用率の向上
- ・新たな施設基準の取得
- ・診療報酬請求漏れの防止及び査定を減らすための取組
- ・未収金の発生防止と早期回収
- ・外部研究資金の積極的な獲得

2) コスト管理の体制強化

- ・診療情報と財務情報を用いた経営分析の実施
- ・病院部門における原価計算の実施と精度の向上
- ・予算執行管理体制の検討
- ・ベンチマークシステムを活用した材料費の縮減
- ・後発医薬品の採用推進

○ その他業務運営に関する重要事項（センター運営におけるリスク管理）

- ・理事長をトップとしたセンター全体のリスクマネジメント体制の強化（経営戦略会議等におけるリスクの分析及び評価）
- ・法令等に基づく個人情報保護、情報公開の適切な管理及び事務
- ・研修等の実施による情報セキュリティに対する職員の意識向上と管理方法の徹底
- ・安全衛生委員会や内部通報制度を通じた安全な職場環境の整備
- ・災害拠点病院としての必要な体制の整備

- ▶ HP アクセス数（法人） (73,713 件)

- ▶ 平均在院日数 (17.5 日)
- ▶ 新規患者数 (入院 9,494 人)
- ・病床利用率 (84.5%)
- ・査定率 (0.30%)
- ・未収金率 (0.95%)
- ・共同／受託研究実施件数 (再掲)
- ・外部資金獲得金額 (再掲)

- ▶ 後発医薬品採用割合 (品目数)

- ▶ 研修参加率